

平成 29 年度

**「生涯学習に関する意識調査」**

**調査報告書**

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

生涯学習センターの利用の有無を問わず広く市民にアンケートを実施することで、生涯学習に対する意識の実態を調査し、今後の事業計画に活用する。

### 2. 調査実施施設

以下の4施設が調査を実施した。

葵生涯学習センター、東部生涯学習センター、西奈生涯学習センター、健康文化交流館 来・て・こ

### 3. 調査実施期間

配布期間:平成29年6月～8月

回収期間:平成29年7月～9月

### 4. 調査結果の表示方法

複数回答可能な設問の場合、すべての設問の合計が100%にならない場合がある。また、1項目を選ぶ設問の場合も、端数の処理の都合上、合計が100%にならない場合がある。

# I 調査対象

## 1. 調査対象

静岡市葵区の生涯学習センター近隣の自治会町内会に属する組長とその家族、及び葵・駿河区の大学に通う学生を対象とした。

葵	城内地区(118)、伝馬町学区(380)、横内学区(221)
東 部	千代田学区(1092)、竜南学区(404)
西 奈	西奈学区(1,500)
駿 河	県立大学(255)、東海短大(100)

## 2. 調査方法

各地区の連合自治会長を通じて各自治会長へ、各組長へのアンケートの配布及び回収を依頼した。大学へは学生課及び大学教授へ依頼し、アンケートの配付及び回収を依頼した。

## 3. 回収状況

アンケート回収数は2,587枚、平均で63.6%の回収率であった。

	配布枚数	回収枚数	回収率
葵	719	527	73.3%
東 部	1,496	890	59.5%
西 奈	1,500	856	57.1%
駿 河	355	314	88.5%
合 計	4,070	2,587	63.6%

※回収割合は、図4のとおり

## Ⅱ 調査結果

### 1. アンケートの集計結果

#### 質問1 性別

性別	男性	女性	無回答
	930	1621	14

#### 質問2 年齢

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
	180	185	177	325	403	648	496	146	7

#### 質問3 職業

職業	会社員	パート	主婦	学生	産休	無職	その他	無回答
	794	363	450	326	6	517	94	16

#### 質問4 自由になる時間帯はいつか

平日	6:00~	9:00~	12:00~	15:00~	18:00~	21:00~	あまりない	無回答
	331	527	640	430	684	1102	513	107
土日	6:00~	9:00~	12:00~	15:00~	18:00~	21:00~	あまりない	無回答
	535	793	905	793	817	991	474	197

#### 質問5 知っている施設について(複数回答可)

アイセル21	来てこ	西部	南部	東部	長田	北部	藁科	大里	西奈	美和
1,536	757	246	530	1079	288	458	272	245	1240	174
なし	無回答									
393	80									

#### 質問6 下記の施設で行われていることを知っているか

	集会室貸出	サークル利用	紹介、案内	まつり	講座	情報発信	活動支援	その他
知っている	1,482	1,635	1,161	1,161	1,533	1,023	758	4

#### 質問7 利用したことがあるものはどれか

	集会室貸出	サークル利用	紹介、案内	まつり	講座	情報発信	活動支援	その他
ある	610	683	313	511	630	212	119	6

#### 質問8 知らない理由

	場所知らない	趣味の時間ない	タイミングあわない	施設を知らない	別の場所利用	交通手段なし	その他
該当する	365	403	153	217	200	49	142

質問9 興味ある分野について(複数回答可)

	歴史	美術	音楽	科学	スポーツ	料理	子育て	国際・外国語	健康
ある	662	500	856	179	965	803	347	319	1,155
	福祉	パソコン	環境問題	消費者	防災	知識や資格	自然体験	その他	興味ない
ある	322	475	188	109	353	300	303	48	112

質問10 1年以内に参加した分野について(複数回答可)

	歴史	美術	音楽	科学	スポーツ	料理	子育て	国際・外国語	健康
ある	159	121	220	44	343	183	129	85	249
	福祉	パソコン	環境問題	消費者	防災	知識や資格	自然体験	その他	どれもやっていない
ある	135	113	50	14	163	121	49	61	1,209

質問11 どのようなところで学んだのか(複数回答可)

	学校の 正規課程	学校の 公開講座	公共施設 の講座	カルチャー センター	図書館・ 博物館	サークル	職場の 研修	独学	その他
ある	112	92	301	303	269	414	118	114	49

質問12 普段どのように情報を得ているか(複数回答可)

	家族・ 友人	学校・ 職場	新聞・ 雑誌	インター ネット	広報 しずおか	チラシ・ ポスター	回覧板	その他	無回答
ある	597	255	351	403	444	250	241	30	1,419

## 2. 回答者の属性

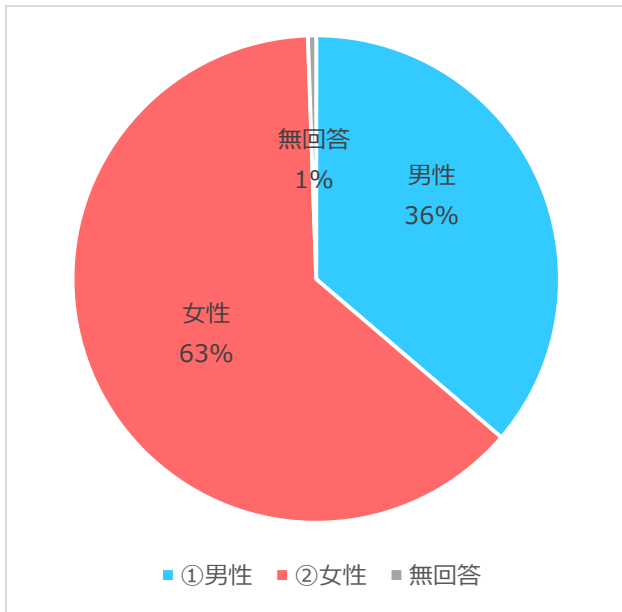


図1 回答者の性別

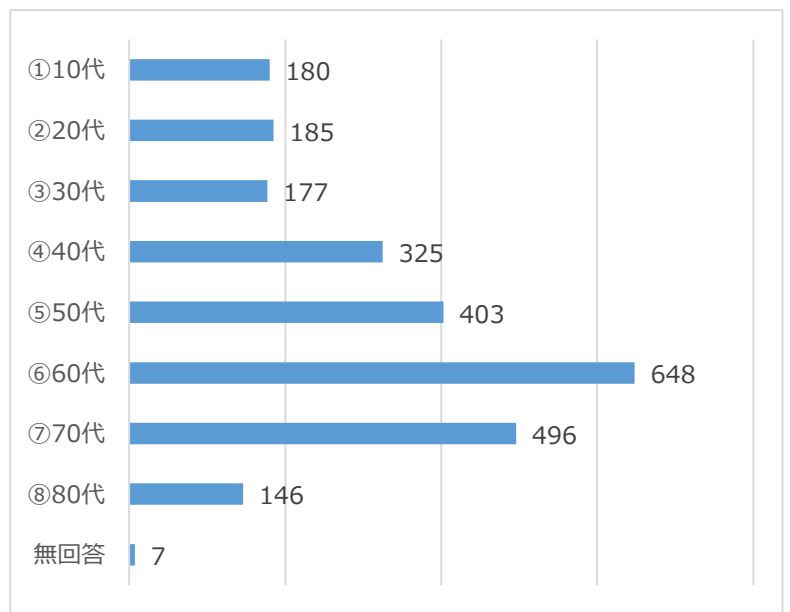


図2 回答者の年代

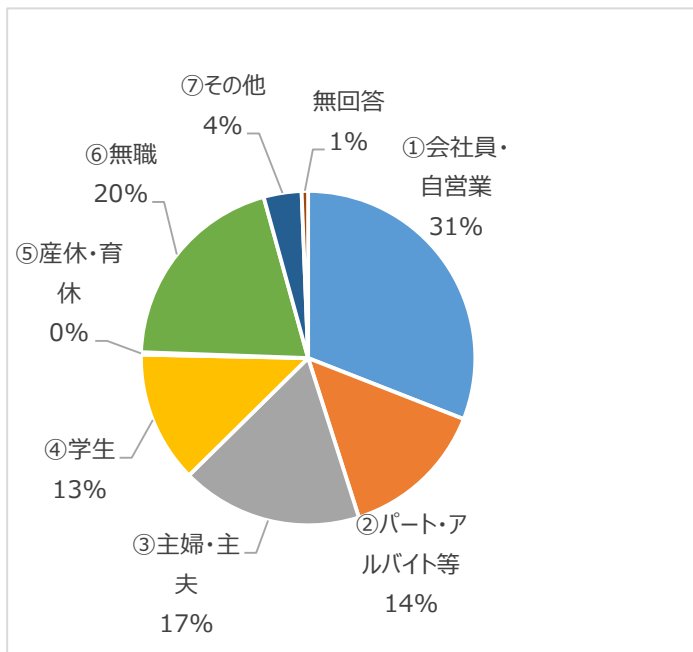


図3 回答者の職業

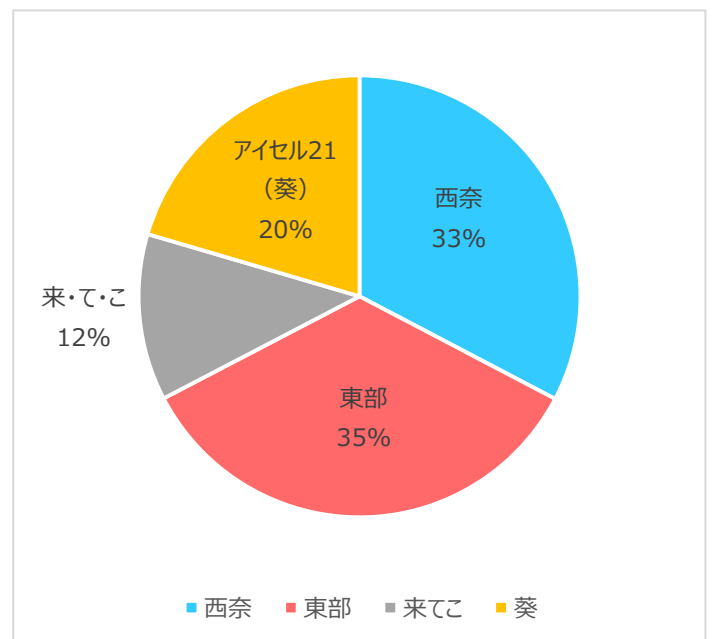


図4 施設ごとのアンケート回収率

### 3. アンケート結果のグラフ

#### (1) 一日の中で自由になる時間帯（複数回答可）

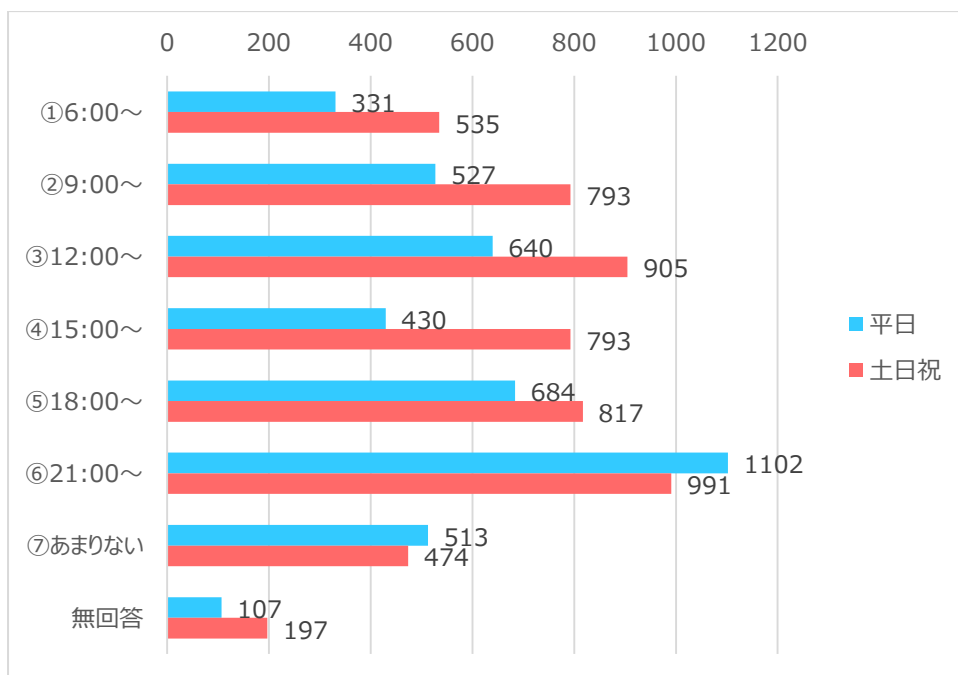


図5 自由になる時間帯

一日の中で自由になる時間帯についてアンケート調査を行ったところ、図5のとおり平日は21時以降、次いで18時以降が多かった。これは、図3のとおり、回答者の半数以上を学生、会社員、アルバイトが占めていることが影響したのだと考えられる。学生や勤労者が平日の事業に参加できる時間帯は夜間に限られることがわかる。

土日祝についても同様に21時以降が最も多いが、次いで12時以降、18時以降、9時以降に回答が分散した。平日に比べて一日の中で自由になる時間帯には幅がみられることから、比較的どの時間帯に事業を開催しても受講を見込めることが予測できる。

以上のことから、学生や勤労者を対象とする事業は平日夜間か土日祝に開催し、幅広い世代を対象とする場合には、土日祝の開催が適切であると考えられる。

勤労者に関する詳細な情報はⅢで分析を行う。生涯学習センターの利用経験や関心のある分野に注目し、利用促進のための方策を考察していく。

(2) 静岡市生涯学習センターの認知度

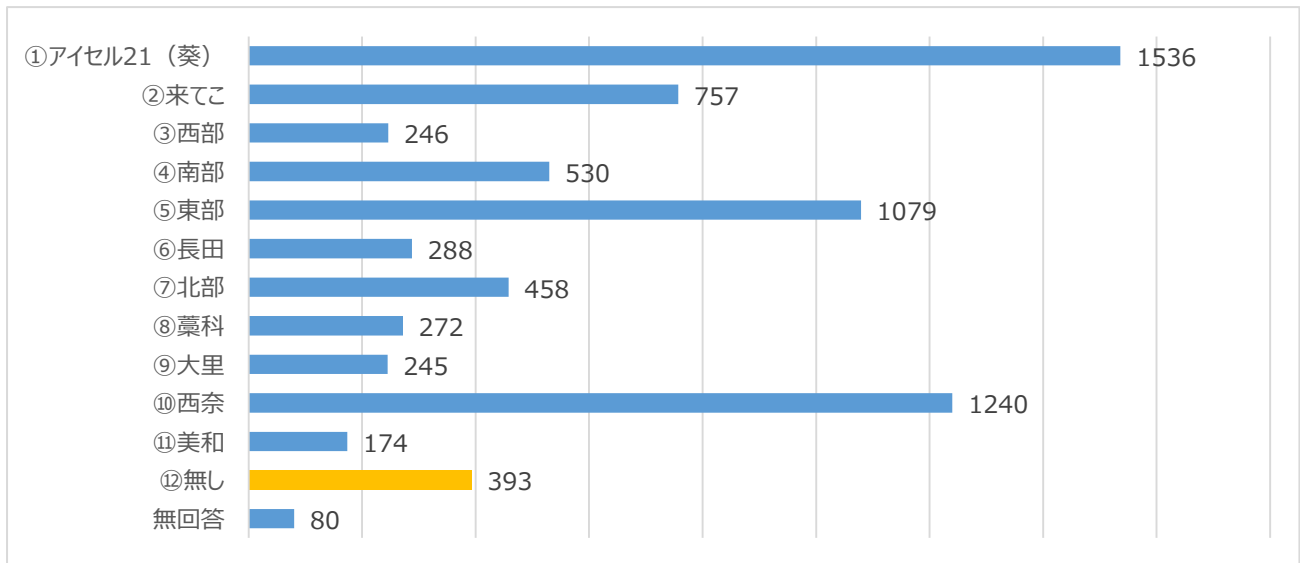


図6 静岡市生涯学習センターの認知度

(3) 静岡市生涯学習センターの利用内容の認知度

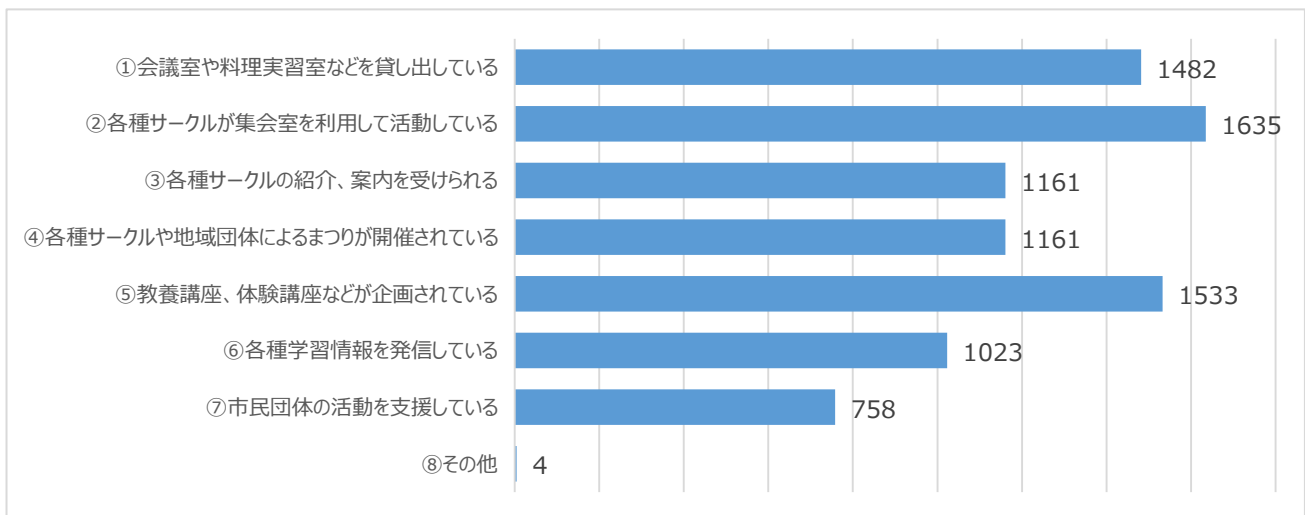


図7 静岡市の生涯学習センターの利用内容の認知度

静岡市の生涯学習センターの認知度について調べたところ、図6のとおりとなった。アンケートを配布した施設（アイセル21（葵）、来てこ、東部、西奈）は認知度が高いが、回答者の居住地から離れた施設ほど認知度が低くなる傾向がみられる。

利用内容の認知度については、図7のとおりとなった。「各種サークルが集会室を利用して活動している」が最も多く、次いで「教養講座、体験講座などが企画されている」、「会議室や料理実習室などを貸し出している」という結果であった。

また、各施設で大々的に実施しているまつり事業については、教養講座、体験講座と比べて認知度が低いことがわかった。日頃生涯学習センターを利用していない層に向けて広報を強化する必要がある。



#### (4) 静岡市生涯学習センターの利用経験

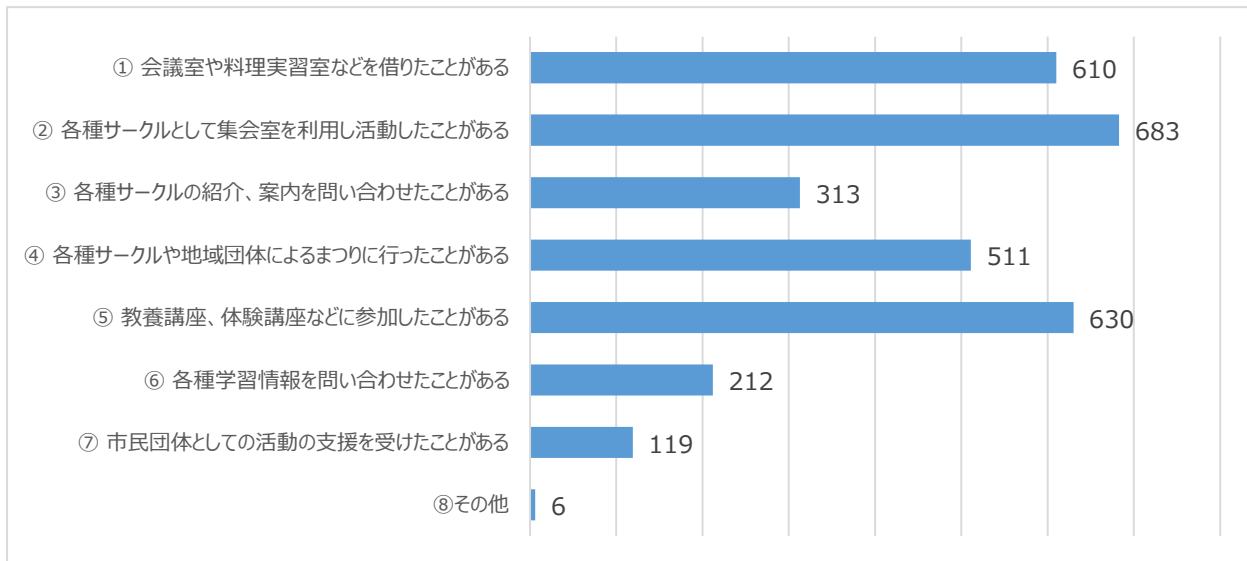


図8 静岡市の生涯学習センターを利用した内容

#### (5) 静岡市生涯学習センターを利用したことがない理由

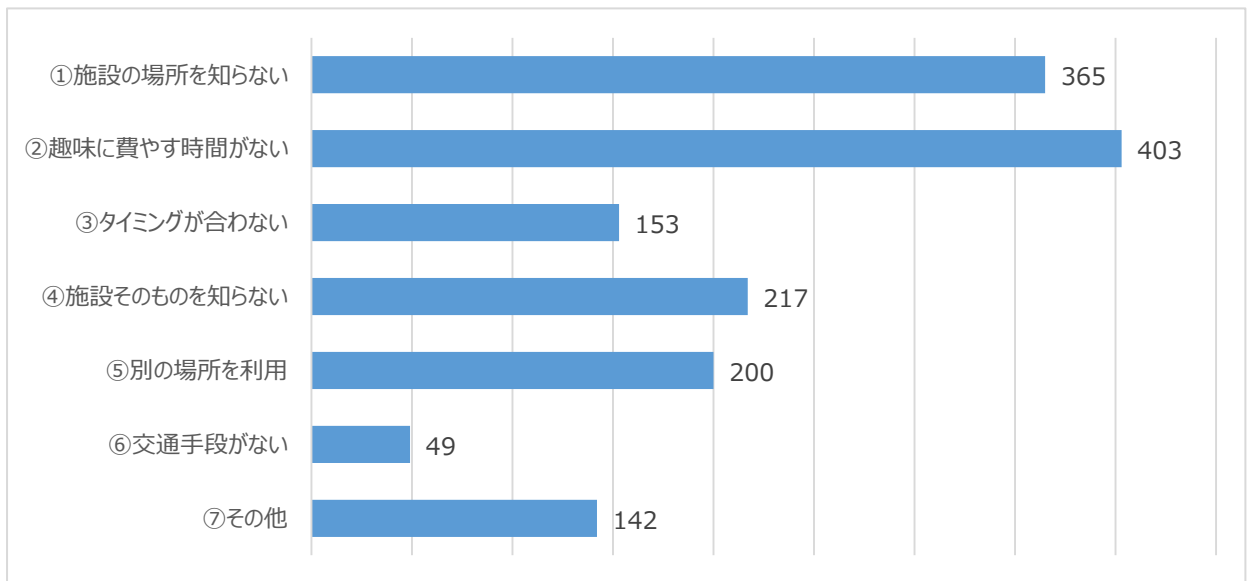


図9 静岡市の生涯学習センターを利用したことがない理由

生涯学習センターを利用したことがない理由については、図9のとおり「趣味に費やす時間がない」、次いで「施設の場所を知らない」に回答が集中した。また、回答者は学生や勤労者の割合が高く、図5のとおり一日の中で自由になる時間は夜間に集中し、施設の開館時間と合わないことが「別の場所を利用」「タイミングが合わない」の回答に繋がっていると考えられる。

(6) 興味のある分野及びおよそ1年以内に参加したり学んだ分野（複数回答可）

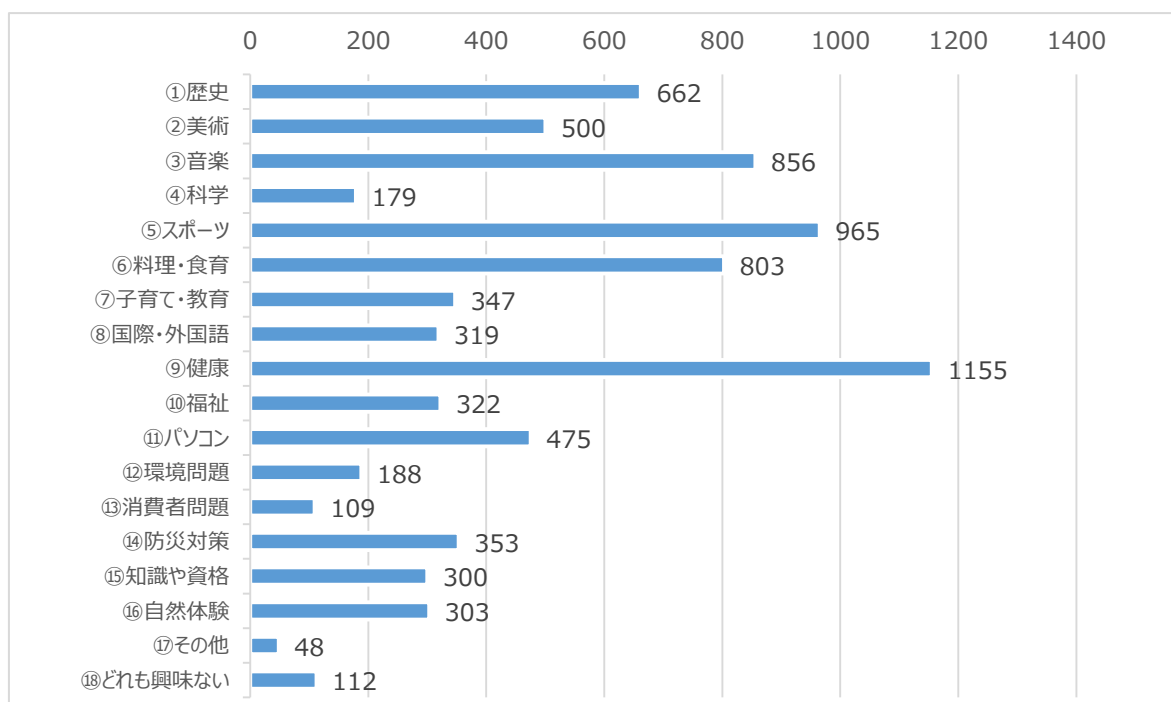


図10 興味のある分野

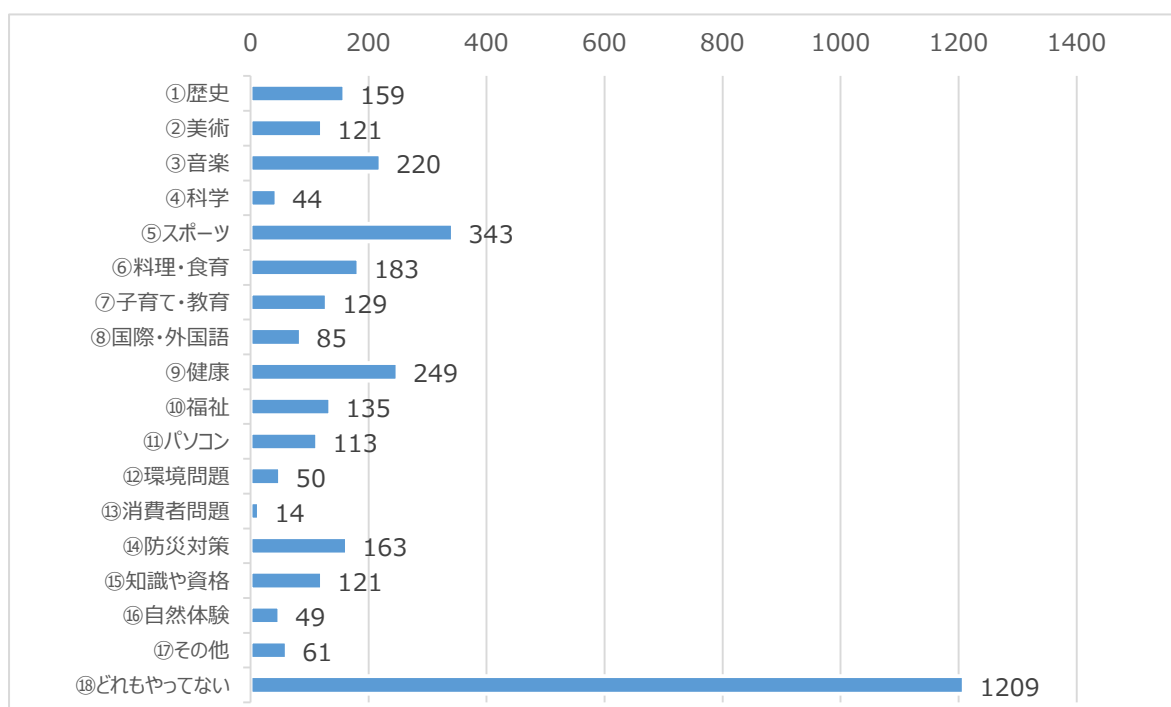


図11 1年以内に学んだ分野

(7) どのようなところで学んだか（複数回答可）

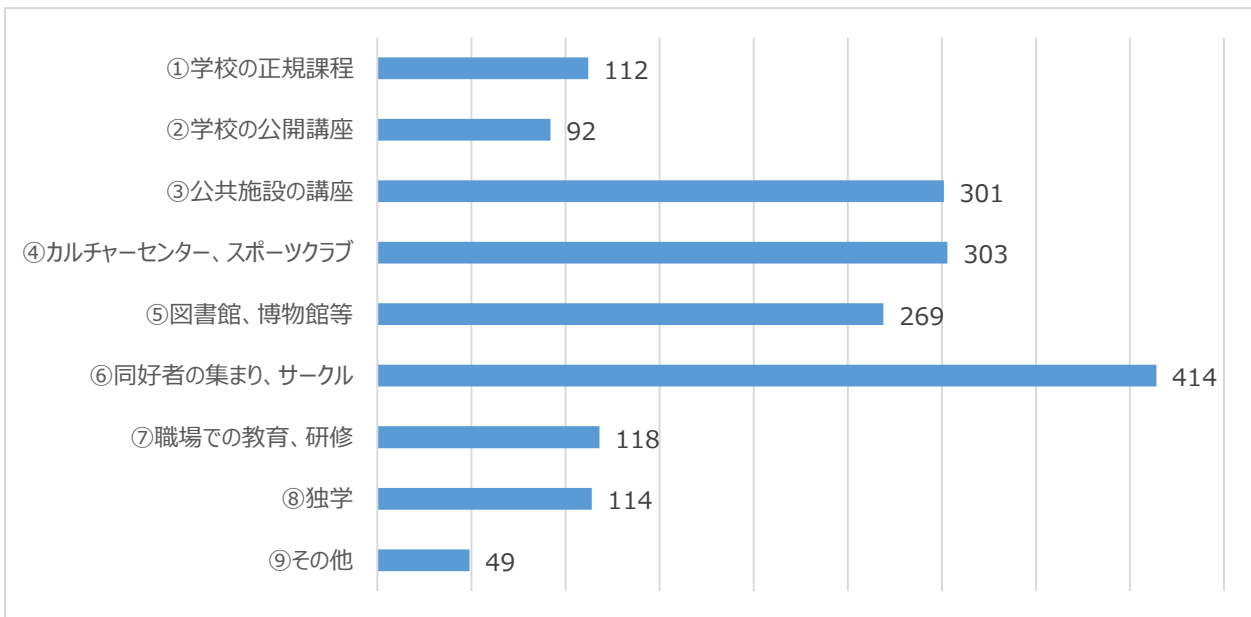


図 12 どのようなところで学んだか

(8) 情報を得る手段（複数回答可）

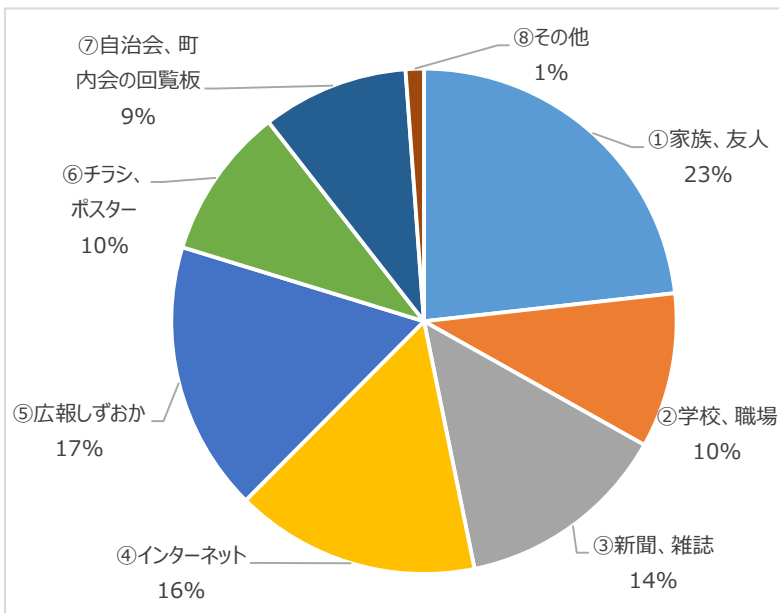


図 13 情報を得る手段

### Ⅲ分析

#### (1) 勤労者の利用を促進するための方策

今回実施したアンケートの回答者は、勤労者が占める割合が高かった。そこで、勤労者で施設を利用したことがない人の回答結果に注目し、主な理由や関心のある分野から、今後利用を促進するための方策を考察していく。

#### 1. 生涯学習センターを利用したことがない主な理由と興味のある学習の分野

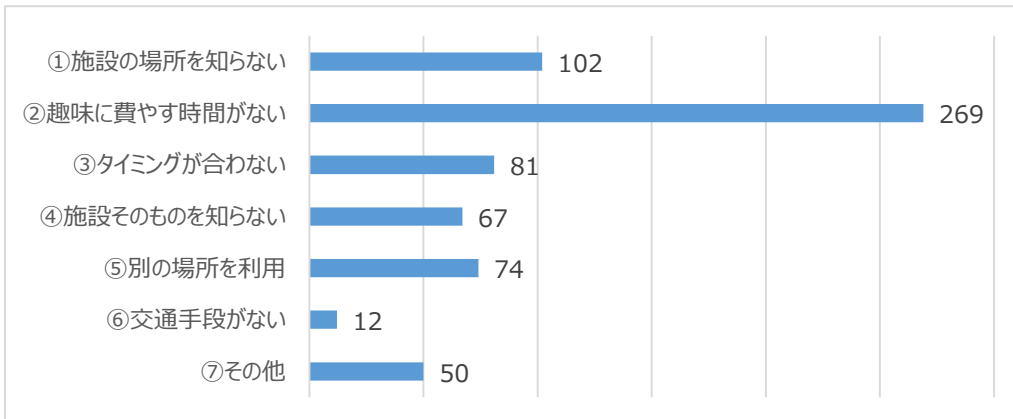


図 14 生涯学習センターを利用したことがない主な理由

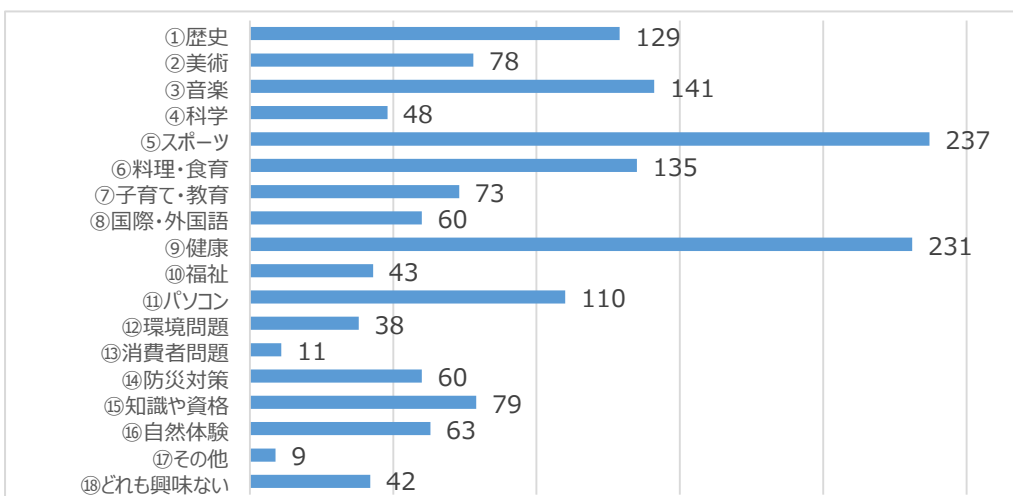


図 15 興味のある学習の分野

#### 《特徴・分析》

勤労者で施設を利用していない人の主な理由については、図 14 のとおり「趣味に費やす時間がない」という回答が圧倒的に多く、多忙な生活スタイルが窺える。次いで「施設の場所を知らない」が多かった。チラシ等の配布物には、施設の場所の地図や案内をわかりやすく掲載し、SNS 等も含めた様々な広報手段による施設や事業の PR を強化する必要があるだろう。興味のある分野は、図 15 のとおり「スポーツ」、「健康」に回答が集中し、健康への意識の高さが窺える。次いで、「音楽」、「料理・食育」、「歴史」「パソコン」等、教養や家庭生活、仕事に役立つ分野への関心が高いことがわかった。これらの分野の講座を勤労者が参加しやすい平日夜間の時間帯や土日祝に開催し、集客に繋げたい。

## 2. 勤労者が1年以内に学んだ場所と学んだ分野

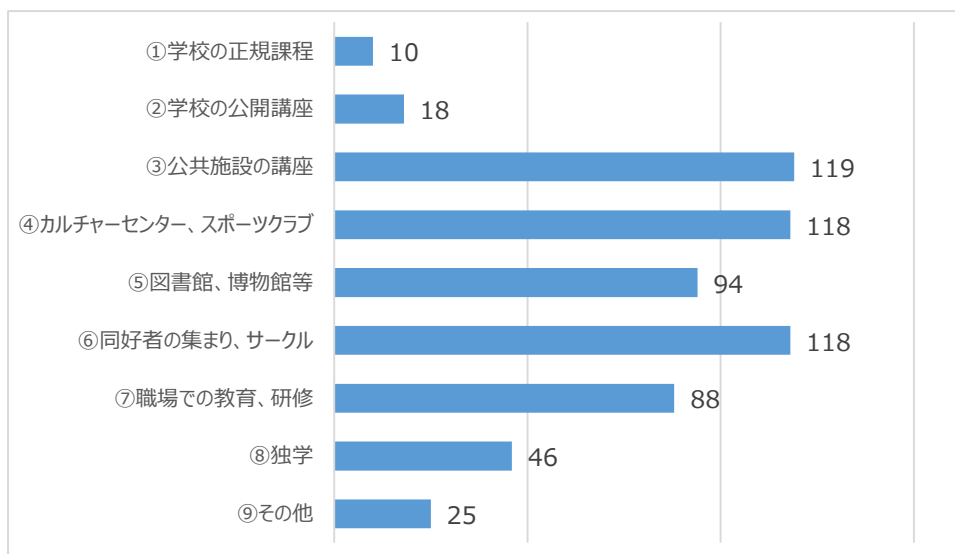


図 16 勤労者が1年以内に学んだ場所

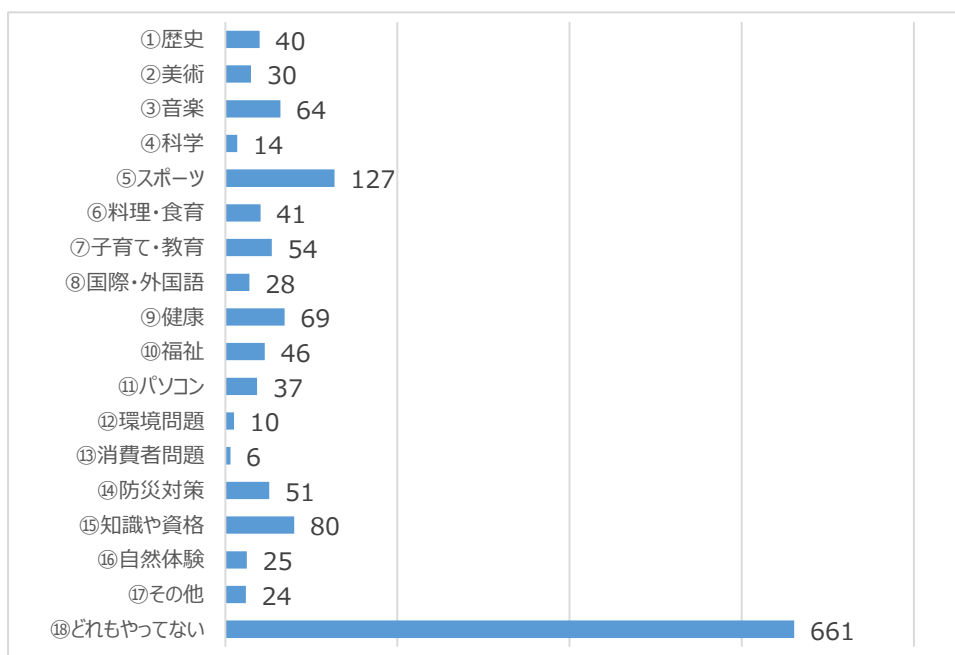


図 17 勤労者が1年以内に上記の場所で学んだ分野

### 《特徴・分析》

勤労者が1年以内に学んだ場所は、図 16 のとおり「公共施設の講座」が最も多く、次いで「カルチャーセンター、スポーツクラブ」、「同好者の集まり、サークル」が多かった。

上記の場所で学んだ分野については「スポーツ」が最も多く、スポーツ関係のチームや同好会に所属したり、体育館やスポーツジム、カルチャーセンター等に活動場所が限られていることが予想できる。生涯学習施設では実技を伴うスポーツ事業の開催は難しいが、スポーツ理論を中心とした座学やヨガ、ストレッチ等の激しい動きを必要としない分野で補うことができると考える。

また、「どれもやっていない」が突出していることから、開拓の余地があると考えられる。

### Ⅲ分析

#### (2) 高齢男性の利用を促進するための方策

長年、生涯学習センターの利用者は60代以上の世代が多い傾向があり、今回のアンケートでも同様の結果が得られた。しかし、これまで自由に行動できる時間が多いと考えられてきた60代以上の世代でも、今回の調査では生涯学習センターを利用したことがある割合は60%未満であった。また、利用者の男女比からは、全世代において男性の利用者が少ないことがわかる。

そこで、施設を利用していない60代以上の男性の回答結果に注目し、利用していない主な理由や関心のある分野から、今後利用を促進するための方策を考察していく。

#### 1. 生涯学習センターを利用したことがあるか

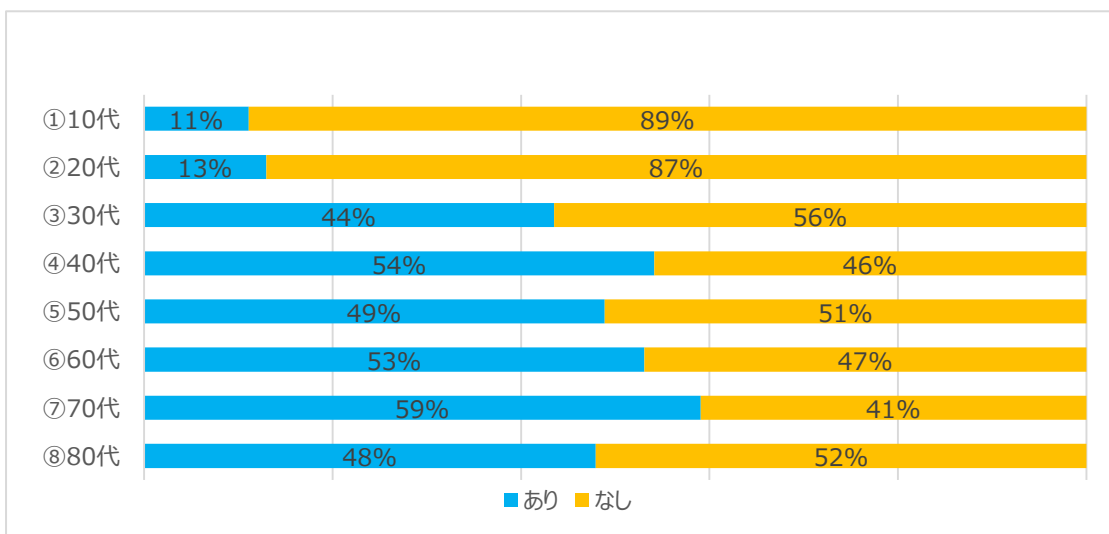


図 18 年齢別利用の有無

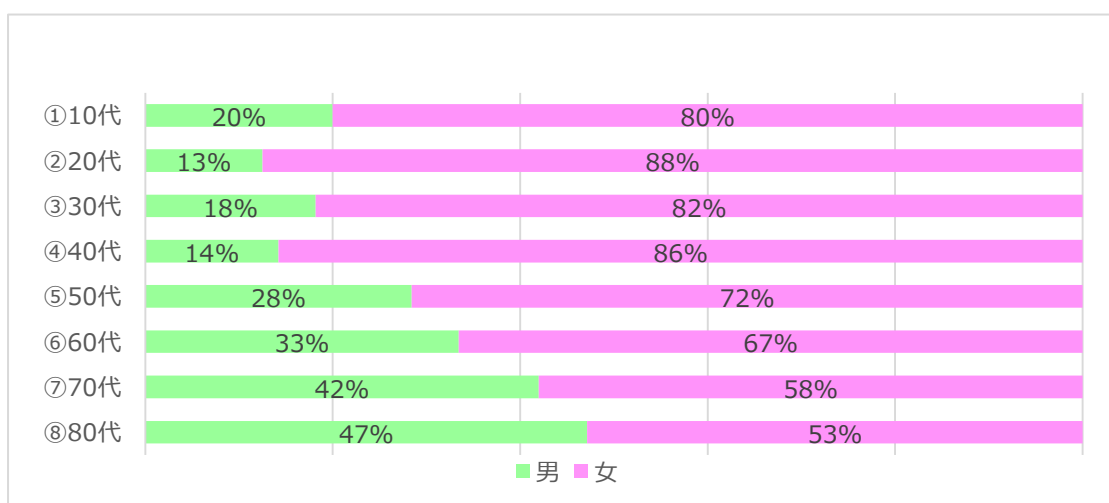


図 19 年代別利用者の男女比

### 《特徴・分析》

生涯学習センターの利用の有無を世代別に集計したところ、図 18 のとおり 10 代から 20 代は利用者が 20%未満であった。他の世代と比べて圧倒的に利用が少ないこの世代の利用を増やすことが、生涯学習センターの利用者増加につながると考えられる。

しかし、生涯学習センターの利用が多い世代とされる 60 代以上の世代でも利用したことがある人の割合は 60%未満であった。これは、図 3 の結果のとおり回答者の多くが勤労者であり、60 代以上の世代も就労している可能性が高いことが影響したと考えられる。

また、図 19 のとおり利用者の男女比に注目すると、全世代において利用者は圧倒的に女性が多く、男性の利用率が低いことがわかる。そのため、男性が興味を持っている学習分野から潜在的な学習ニーズを分析し、計画的に事業化していくことによって新規利用者層を開拓できると考える。

## 2. 生涯学習センターが主催事業を実施していることを知っているか、参加したことがあるか

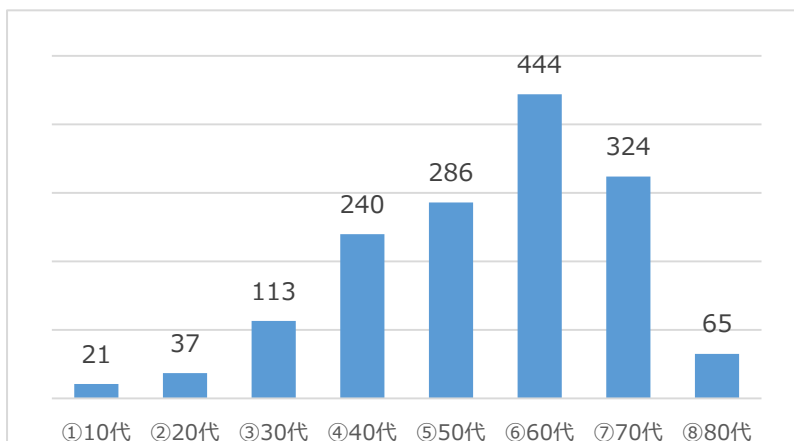


図 20 主催事業を知っているか（年代別）

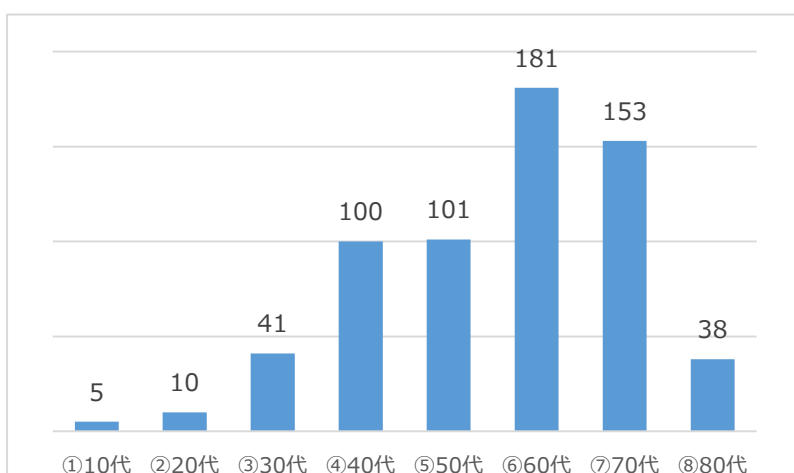


図 21 主催事業に参加したことがあるか（年代別）

《特徴・分析》

図 20、21 のとおり、主催事業の認知度、参加経験ともに 60 代、次いで 70 代が多い結果となった。また、主催事業の認知度と参加経験は比例する結果が得られた。

このことから、まずは主催事業の認知度を上げることが参加率を向上させる上で不可欠であるといえる。広報誌への掲載、自治会や公共施設等へのチラシ配布、SNS の活用等、従来から実施している広報手段だけでなく、今後も新たな広報先を積極的に開拓していく必要がある。

3. 高齢男性（60 代以上の男性）が生涯学習センターを利用しない理由

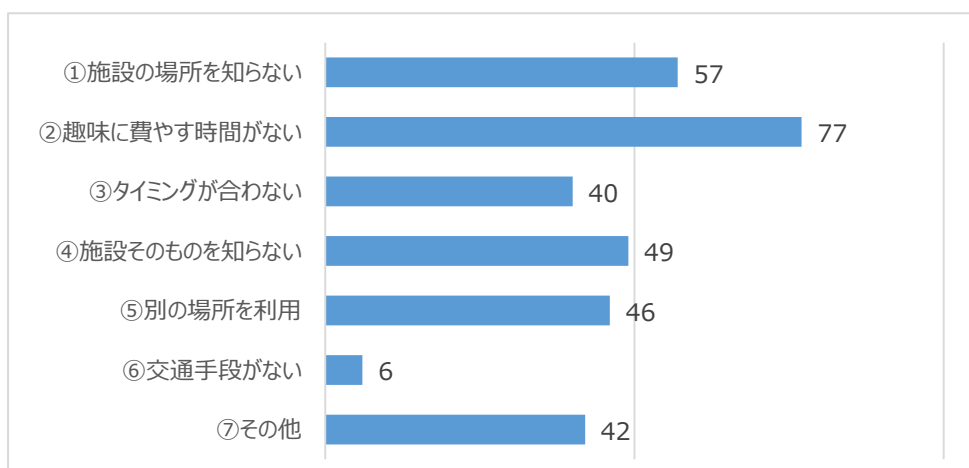


図 22 高齢男性（60 代以上の男性）が生涯学習センターを利用しない理由

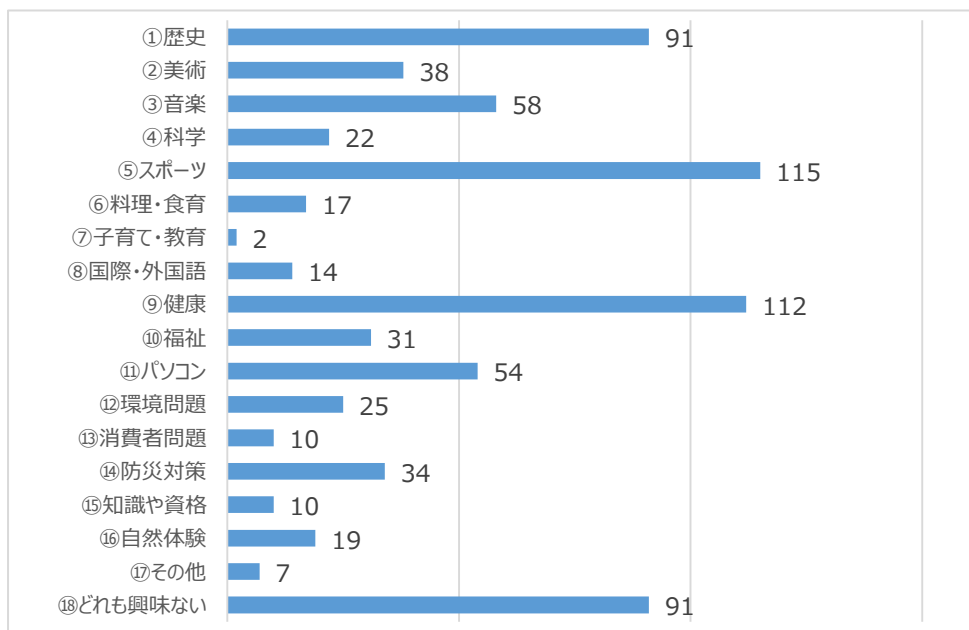


図 23 生涯学習センターを利用しない高齢男性（60 代以上）が興味のある分野



#### 《特徴・分析》

生涯学習センターを利用しない理由は、図 22 のとおり「趣味に費やす時間がない」、「施設場所を知らない」が多かった。この結果は、全世代の結果と同じであった。先の考察で述べたとおり 60 代以上の勤労者が増えたことが要因の一つと考えられる。また、退職後でも地域での活動機会が少なく、趣味等への関心が低い場合には生涯学習施設の場所を知らない割合が高くなるのではないだろうか。

図 23 からは、「どれも興味ない」の回答が 3 番目に多く、いわゆる無関心層が多いことが窺える。この無関心層を開拓することで、生涯学習センターの利用促進に繋がるものとする。

関心のある分野については、図 24 のとおり「スポーツ」、「健康」に回答が集中していることから、他の世代と同様に健康への意識が高いことが窺える。これらの分野の事業を夜間や土日祝にも充実させる等、現代の高齢者の多様なライフスタイルに合わせていく必要があるのではないかと考える。

また、対象を男性に限定した料理講座や健康講座を実施することも、初めて講座を受講する上での安心感に繋がるのではないかと考える。

#### IV.今後の課題

これまで、生涯学習センターの利用者は圧倒的に 60 代以上の高齢者が多く、利用率が少ない若年層の集客をいかに増やすかを検討する機会が多かった。しかし、今回の調査結果からは、世代に限らず勤労者の割合が増えたことや、多忙な生活の中で趣味に費やす時間への価値を見出せずにいる人が多い現状を垣間見ることができた。雇用機会の拡大によって 60 代以上の勤労者が珍しくなくなった今、若年層ほど忙しく高齢者は自由に行動できる時間が多いという考えを改める必要があると考える。そのうえで、高齢労働者が仕事に活用できる生涯学習講座の企画・運営に注力していく。

また、生涯学習センターを利用していない人の興味のある分野の調査からは、全世代において健康やスポーツへの関心が高いことがわかった。「趣味に費やす時間がない」ながらも、自身の健康管理や余暇の充実を図るための学習の潜在的なニーズが窺えるため、これらの分野の事業を平日の日中だけでなく、夜間や土日祝に開催し、一層の充実を図りたい。

また、今後は社会の働き方改革の進展に伴い、空き時間の活用や個人のスキルアップ意識が向上することが予測される。これまで生涯学習センターを利用してこなかった勤労者の動向に注目し、新たな学習分野の開拓にも積極的に取り組んでいきたい。